

## <東大阪市>

### 1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・WIN 書庫を活用した学校図書館蔵書管理システムの運用
- ・小・中学校に週1回、図書館司書の配置
- ・小学校における、公立図書館との連携

### 2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

市教育研究会に東大阪市立小・中学校図書館教育研究会がある。小学校、中学校それぞれで総会・研修会・読書感想文(感想画)審査会を実施した。

### 3. 図書館教育研究会の活動について

◎小学校 総会および講演会(書面開催)

◎中学校 総会(7/7開催)

◎読書感想文審査会(小・中学校)

\*令和4年度読書感想文応募作品数

- ・小学校 応募総数 5,688 作品  
(低学年)自由読書 1,090、課題読書 140  
(中学年)自由読書 1,934、課題読書 248  
(高学年)自由読書 2,057、課題読書 219

- ・中学校 応募総数 7,530 作品  
自由読書 7,209・課題読書 321

・府コンクール

小学校 高学年課題図書 佳作1作品

◎読書感想画審査会(小・中学校)

\*令和4年度読書感想画応募作品数

- ・小学校 応募総数 55 作品  
内1作品を大阪府コンクールに応募
- ・中学校 応募総数 164 作品  
内6作品を大阪府コンクールに応募
- ・府コンクール 入選

《優秀賞》

【指定読書】「蛍と月の真ん中で」

英田中学校2年 石水雪菜

◎小学校教科研究会研修会(講演会)

◎小中合同研修会 中止

### 4. 学校図書館の蔵書管理方法について

市立全小中学校でデータベース化し、バーコードによる貸出。

## <柏原市>

### 1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて(例年)

- ・読み聞かせのボランティア派遣
- ・学校司書の配置
- ・柏原市立図書館との連携 図書館司書による出前授業
- ・ブックトーク
- ・本の修理講座
- ・図書館のお話
- ・放課後子ども教室での読み聞かせ等

### 2. 学校図書館関係の組織形態と活動について

- ・市教育研究会に図書館教育部会がある。  
月1回、小中の担当者が集まり、会議や交流会、読書感想文関連の作業、研修等を行った。

### 3. 図書館教育研究会の具体的な活動について

・読書感想文審査会

《小学校》2024作品

低学年 自由図書 258 課題図書 104

中学年 自由図書 585 課題図書 160

高学年 自由図書 677 課題図書 240

《中学校》521作品

自由図書 504 課題図書 17

・読書感想画

読書感想画については、応募がなかった。

・小中交流会

ディスプレイの方法、整理の仕方、読書活動の活性化、市図書館との連携などについて各校の取り組みを紹介。

・市内学校司書の連絡会

・市図書館の電子図書の活用について

### 4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・図書原簿(契約時点で書店がデータ作成)による。
- ・データ管理をしている学校もある。  
(独自にバーコードで貸し出し業務の管理)

## <八尾市>

### 1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・各小学校に週 16 時間、中学校には週 8 時間、図書館サポーターが配置されている。
- ・市立図書館からの長・短期貸し出しを利用できしており、また、市立図書館図書ネットによる検索、予約、新着図書の紹介など、連携を進めている。

### 2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・市教育研究会に学校図書部会があり、各小中学校から代表が集まり、会議、読書感想文選定、実践報告、研修会と計画的に行っている。

### 3. 学校図書館の具体的な活動について

- ・読書感想文審査会  
(読書感想画は、募集せず。)
- ・市教研秋季分科会

### 4. 【曙川東小学校による実践報告】

曙川東小学校では、図書館サポーターや図書委員会など様々な活動と連携して、児童の図書活動の活発化と効果的な学校図書館の活用をはかっている。以下、実践内容の取組みを紹介する。

#### ① 本の福袋

図書館サポーターと一緒に本を選び、学年に応じて福袋を準備している。福袋用に、児童に読んでほしい本や人気のあるシリーズ本などを2学期末に新たに購入した。そこで、新しい本や人気の本を中に入れるようにしている。中身がわからないことや、1年に一度であることから児童は興味を持って図書館に行く姿があった。普段手に取らないような本が当たることが多く、読書の幅が広がり、そのシリーズの本をまた借りに来る姿が見られた。普段から図書館を多く利用する児童にとっても、新しい本に接するきっかけとなった。

#### ② 本の宅配便

学期に一回、本の宅配便を行っている。  
図書委員会の児童がそれぞれの学年にあっ

た本を選び、各教室へ届けるようにしている。宅配便にはその学年の児童から人気のあるもの、課題図書、図鑑などいろいろな種類を入れるようにしている。朝の読書時間、宅急便をきっかけに新しい本に触れ、読む機会が増えたと感じる。

#### ③ 読書ノートとしおり

年度初めに朝日新聞社と大阪読書推進会が実施している読書ノートに応募している。

ノートには、読んだ本のタイトルと感想を1冊ずつ記入し記録している。1～4年生は100冊、5・6年生は50冊に目標を設定し、達成した児童には図書委員会で作成しているしおりをプレゼントしている。それに加え目標達成した児童の名前を朝日新聞デジタルへも掲載している。

#### ④ 授業単元の教科書の面展

図書館サポーターとの連携し、各学年が作成している学年だよりを参考に教科書に載っている本を面展している。児童は「教科書に載っている本や！」と言って一度手に取る様子が見られる。教科書に載っている本は普段手に取りにくいという傾向があるため、このように面展することで、児童が手に取りやすい環境を作るよう心掛けている。

本校では、教科書に取り上げる本をほとんど所有している。それだけでなく、担任からの要望があれば関連する本を集め、一括で教室に貸し出しも行っている。毎年、複数の学級で貸し出しの希望がある本については、できる限り複数購入し同時に授業が行えるようにしている。

こうした取組みにより、たくさんの本と出会い、様々な種類の本を読む機会が増えてきた。今後も本に触れる機会をつくり、語彙や知識を増やし、書くことや話すことの力を育てることが今後の課題である。

以上